



## 学級通信 第20号 effort(努力)

メール e-nakayoshi@gfr.parinichi.com

発行日: R7年9月26日

パリ日本人学校2年A組

発行: 担任 仲吉永克



### 「自分らしく生きるために」《優良賞》 新結衣さん

あなたは今の社会を生きやすいと思いますか。感じ方は人それぞれだと思いますが、私は以前と比べたら少しずつ生きやすい社会になっていると感じます。生きやすい社会を創る為には、「多様性」が鍵となってくるのではないのでしょうか。多様性とは、ある集団の中に、異なる特徴・特性を持つ人がともに存在することを指します。SDGsの活動など多様性は現在、世界的に重要視されています。考え方や容姿、価値観など「違い」に嫌気が差した経験はありませんか。「違い」を認め合える社会にしていく上で、多様性は今の時代に欠かせない概念だと感じています。しかし、そんな多様性を今以上に尊重すべきだと思う人もいれば、多様性を強要させることに違和感を感じる人もいるのが現状です。具体的にはどのような多様性に配慮した取り組みがされているのでしょうか。そして、私たちはどのように「多様性」と生きていくのでしょうか。



身近な多様性の取り組みの一つとして、クレヨンなどの「肌色」という総称が「ペールオレンジ」や「うすだいたい」へと変化した事例があります。肌色という表現自体が「肌色はこの色が標準である」というイメージを与えてしまう為、総称が変化したそうです。私はこの取り組みを知るまで「肌色」という総称に違和感を感じたことが無かったので、自分の視野の狭さを痛感しました。このようなことから、多様性は視野を広げ自分らしさを大切にすることも大切です。

私は、視野が広がったと思う一つとして海外での生活が大きいかと感じています。海外生活を通して、日本にいたら気付かなかっただろう考え方や価値観に出会いました。言語や文化の違いや、肌の色など、一人一人特色があるのだと改めて思いました。しかし、ヨーロッパではアジア人は少数派であり見知らぬ人に差別のような態度をとられることもあり「違い」で苦勞することも多いです。「違い」があることでの苦勞を減らし、生きやすい社会にしていくためには多様性はなくてはならない存在であると、海外生活を通して身に染みて感じました。

私は多様性を欠かせない概念だと思う反面、多様性を過剰に押し付けているのではないかと感じることもあります。「多様性」という言葉に縛られているのではないかと私は思います。人の持つ特色を「多様性」として受け取ってしまっているのではないのでしょうか。

「十人十色」という言葉をご存知でしょうか。好み、考え、性格などが人によってそれぞれ違うことを意味します。私は「色」という表し方に魅力を感じたと同時に、とあることを思い出しました。とある先生が言った、「みんなそれぞれ色を持っている」という言葉です。先生によると、これは人の数だけ色があるということだそうです。つまり十人なら十通り、百人なら百通り、一億人なら一億通りの色があることを表しています。一人一人が自分の色を大切にすることができれば、今以上に生きやすく誰もが輝ける社会になるのではないのでしょうか。

キャンバスに絵を描くとしみましょう。人と出会うことで、たくさんの方に触れ、一色だったキャンバスはきっと色鮮やかになっていくでしょう。人々の個性が「多様性」の一括りにされてしまうのは、本来の多様性の姿とかけ離れてしまうのではないのでしょうか。多様性が重要視される今、一人一人が持つ色、つまり一人一人の「存在」を大切にしていきたいと考えます。人が持つ個性や考え方を、「存在」として受け入れることで今以上に自分らしくいられる社会、そして本来の多様性の姿に近づけるのではないのでしょうか。そうすればきっと、一人一人が輝く色鮮やかな世界が広がると思います。

#### 9月29日(日)～10月3日(金) 2年A組 時間割

日	曜	朝の活動	1校時	2校時	3校時	4校時	5校時	6校時	7校時	バス下校
9/29	月	歌の練習	英会話	国語	国語	英語	理科	理科	劇練習	16時40分
9/30	火	委員会	社会	英会話	国語	音楽	英語	数学	体育	16時40分
10/1	水	朝の運動	体育	理科	社会	数学	英語	劇練習	15時40分	
10/2	木	歌の練習	技術	美術	家庭	英語	選択	数学	劇練習	16時40分
10/3	金	朝の運動	理科	音楽	社会	英語	体育	劇練習	15時40分	



「フランスが気づかせてくれたこと」《奨励賞》 池田理花さん

学級推薦の賞名

みなさんは今フランスに住んでいて、いろんなところに旅行に行ったり、特別な経験をしていると思います。でもそれは日本でもできることなんだろうかと考えたことはありますか。私は今までそんなことを考えたことはありませんでした。



でもある人の言葉で私の考えは大きく変わりました。その人は私にこう言ったのです。「フランスに住んでいた、エッフェル塔に行ったことがある、凱旋門に行ったことがある。これは日本の子たちにとってはすべてが非現実的な話です。でも「行った」ということよりも「行って何を感じたか」を大事にしてほしい。」

私はこの言葉を聞いてはじめドキッとしました。たしかに私はエッフェル塔に行ったことがあります。でもそのとき「きれいだな」「高いな」と思ったくらいで、そこで何を感じたのかを深く考えたことはありませんでした。写真を撮ってただ「行った」という事実だけに満足していたように思います。あの言葉をきっかけに私は自分がこれまでどんなふうに過ごしてきたのかを振り返るようになりました。

そして私たちがフランスに住んでいられるのは親が一生懸命働いてくれているからです。旅行やフランスに住んでいるといった経験は、決して当たり前ではありません。私はそのことに気づかず、ただ楽しんでいるだけでした。だからこそこれからは、「どこに行ったか」という事実よりも、「行ってどう感じたのか」「住んでみたからわかったこと」を大事にしようと思うようになりました。

そのことに気づいてから、私はよく日本とフランスの違いを考えるようになりました。たとえばフランスでは、知らない人でも「Bonjour」と挨拶をします。スーパーのレジでも、バスに乗るときでも、自然に「Bonjour」と言葉を交わします。最初はとても変な感じがして、私にはなかなかできませんでした。でも少しずつ慣れていくと、挨拶をすると自分の気持ちも明るくなることに気づきました。ちょっとした言葉が、人と人の距離を縮めてくれるのだと思います。日本ではあまり見られない文化で、フランスならではの良いところだと感じました。

もう一つ私が学んだのは、自分の意見をはっきりと言うことの大切さです。私は以前現地のテニススクールに通っていました。

そのときフランス人の子たちは「このボールは入っていた」「いや、入っていなかった」と言い合っていました。みんな自分の意見を堂々と主張していて驚きました。私はフランス語があまりわからないということを理由にいつも相手の言う通りにしていました。でもだんだんと「自分の気持ちを言うのは悪いことではない」と思えるようになりました。もちろん気持ちがぶつかることもあると思いますが、それで相手と仲良くできなくなるわけではないと思います。むしろ正直に伝えることで、お互いをもっと理解できるのだと学びました。

このように私はフランスでの生活を通してたくさんを感じ、考えるようになりました。もし日本にいたままだったらこうした経験はできなかったと思います。だから私はこれからも「行った」という事実だけに満足するのではなく、「そのとき自分が何を感じたのか」「そこでしかわからなかったこと」を大切にしていきたいです。そして日本とフランスの違いを自分なりに比べながら、自分の気持ちや考えをしっかりと持ち、人に伝えていけるようになりたいです。



10月6日(月)～10月10日(金) 2年A組 時間割

日	曜	朝の活動	1校時	2校時	3校時	4校時	5校時	6校時	7校時	バス下校
10/6	月	歌の練習	英会話	国語	社会	英語	音楽	技術	劇練習	16時40分
10/7	火	委員会	リハーサル	リハーサル	リハーサル	リハーサル	英語	数学	体育	16時40分
10/8	水	朝の運動	体育	国語	理科	劇練習	英語	劇練習	15時40分	
10/9	木	歌の練習	社会	美術	家庭	理科	選択	国語	劇練習	16時40分
10/10	金	朝の運動	理科	仏語	音楽	数学	前日準備	最終練習	15時40分	